

人物紹介

北里柴三郎

慶應義塾大学医学部内科 河合 健

北里柴三郎は1883年に東京大学医学科を卒業して内務省衛生局へ入り、1885年には『痰中ニ在ルコグ(コッホ)氏結核菌試験法』という論文を発表し、翌年ベルリン大学のコッホの許へ留学した。

コッホは1877年には炭疽菌、1882年結核菌、1883年コレラ菌を相次いで発見し、その名声は世界に鳴り響いていた。北里はコッホの指導の許で1889年に破傷風菌を発見し、「嫌気性菌である」「破傷風創面の膿中に破傷風菌または芽胞として存在する」「動物に接種すれば破傷風をおこす」ことを明らかにした。さらに培養濾液をラットに注射しても症状が起きることから「破傷風は菌の産生する毒素によって発病する」こと、さらにウサギにこの毒素を少量から次第に量を増やし致死量を超える量を注射しても何ら症状を起こさないことから「抗毒素が産生される」ことを発見した。さらにコッホの指示にもとづいてベーリングと「動物におけるジフテリア免疫と破傷風免疫の成立について」で画期的な「血清療法」を発表した。ベーリングはその1週間後に単独で「ジフテリアの血清療法」を発表して第1回ノーベル賞を受賞した。

1890年、第10回万国医学会において、コッホは結核菌の培養濾液「ツベルクリン」が結核治療に使えるかもしれないことを発表し世界中の注目を集め、19世紀最大のニュースとまでいわれた。北里は「ツベルクリン」のモルモットによる動物実験を受け持っていた。

1892年、北里はケンブリッジ大学やペンシルバニア大学からの招聘を断り、帰国し「私立衛生会伝染病研究所」を設立した。この設立には福澤諭吉が土地を、森村市左衛門(ノリタケ、TOTO、日本ガイシ創設者)が資金を提供した。伝染病研究所は伝染病の予防、診断、治療を啓蒙する講習会を催し、破傷風、ジフテリア血清、痘苗の収益で順調に発展していた。

1893年、日本最初の結核療養所「土筆ヶ丘養生園」を福澤諭吉の私有地に開いた。病室は60あまりだが、北里の名声を慕う患者で満床となり、すぐに増床が必要であった。

1908年、コッホ夫妻が来日し、宮中に招かれるなど連



日晩餐会、宴会、音楽会、歌舞伎、大相撲など朝野を挙げての歓待をうけ、箱根、京都、奈良を訪れ、北里はその滞日74日の間日本の案内を務めた。

1914年、大隈内閣は突然理不尽にも北里に一言の相談もなく、私立の伝染病研究所を厚生省から文部省に移管し、東京大学医科大学の管理下に置くことを決定した。北里とその一門全員はこの事を知るや直ちに辞職し、「奮然立ちて新たに私立の研究所をおこし、その研鑽を継続せんとす」とし、私財を投じて「北里研究所」を設立した。

1913年、結核の予防・撲滅を目指して日本結核予防協会が設立されて北里は副会頭を務め、1923年には財団法人となり理事長に就任した。

慶應義塾は創立60周年記念に大学医学科を創ることとなり、福澤諭吉に私淑していた北里は勇躍その設立の衝にあたり、学科長として門下の俊秀を率いて1917年4

月にスタートした。

1923年、第1回結核病学会長として「茲ニ第一回日本結核病学会總會ヲ開ク、本會創立ニ當リ、不肖身ヲ以テ圖ラズモ、第一回會長ニ推サレタルハ、余ノ光榮トスル所ナリ……會員諸賢、一層ノ努力ヲ以テ之ガ開拓ニ從ハレン事ヲ』と開会をつげた。

1923年、医師会令により日本医師会が創設され、初代会長に就任した。

北里柴三郎の結核に関する論文・講演・事項

- 1885 痰中ニ在ルコグ(コッホ)氏結核菌試験法(中外医事新報. 第122号)
- 1890 結核研究のための皇室下賜金千円で留学延期
- 1892 ツベルクリンニ就イテ(東京医事新誌. 第747号)
- 1892 Gewinnung von Reinculturen der Tuberkelbazillen und anderer pathogener Bacterien aus Sputum. (Z. Hyg. Infektionskr. 6)
- 1892 Über die Tuberculin-Behandlung tuberculöser Meerschweinchen. (Z. Hyg. Infektionskr. 12)
- 1893 結核サナトリウム『土筆ヶ丘養生園』開設
- 1897 結核ノ免疫試験ニ就イテ(細菌学雑誌. 第41号)
- 1902 結核病ノ豫防及撲滅(講演 第1回日本聯合医学会總會)
- 1904 結核ト日本牛トノ關係(細菌学雑誌. 第101号)
- 1904 Ueber das Verhalten der einheimischen japanischen Rinden zur Tuberculose. (Z. Hyg. Infektionskr. 48)
- 1908 結核ノ免疫ニ関スル実験(細菌学雑誌. 第152号)
- 1908 結核ノ蔓延及ビ豫防(講演 大日本私立衛生会第26年次總會)
- 1909 Tuberculose in Japan. (Z. Hyg. Infektionskr. 63)
- 1911 肺結核ニ就イテ(大日本私立衛生会雑誌 第339, 340, 341号)
- 1912 結核ノ『ツベルクリン』療法ニ就イテ(細菌学雑誌. 第199号)
- 1912 結核病ニ就イテ(大日本私立衛生会雑誌. 第352号)
- 1913 結核予防協会を設立し副会頭に就任
- 1913 コッホ先生終世ノ事業トシテノ結核撲滅(講演 コッホ記念講演会)
- 1915 結核療法ノ進歩(講演 愛媛県医師会)
- 1915 結核ノ蔓延及其豫防(講演 山梨県結核予防協会)
- 1923 結核病学会開會ノ辭(結核 第1巻第1号211頁)